

令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曾ペインティングス
事業主体 (連絡先)	木祖村 商工観光課 (0264-36-2001)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 オその他(地域の特色、産業の振興及び雇用の拡大)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,339,310円(うち支援金:1,047,000円)

美術作家と美術大学学生が藪原宿(木祖村)の空き家の歴史を掘り起こしながら清掃や片付けから始め、家に残された素材等を利用した展示と、地域住民対象のワークショップ、木祖小中学校、木曾養護学校の課外授業を6回開催した。地元企業と共同でオリジナルラベルの地酒限定販売や、地域文化の屋号呼称を残す為に屋号看板の設置、出店が並ぶつばめ市場、ミュージシャンによるライブや地元サークルのコンサート、画家・藤田嗣治との縁に着目し参加者が藤田に扮して街道を練り歩くフジタパレードや藤田嗣治作品巡りなど複数のイベントを開催し、会期中には商店と作家のコラボ・オリジナルポスターが貼られ賑やかに祭りムードを演出した。



【ツバメ屋号看板設置セレモニー】

【目標・ねらい】

- ① 空き家活用
- ② 美術教育の充実
- ③ 文化振興
- ④ 観光振興

- ① 展示や市場の会場として活用した事で地域住民は懐かしみ文化伝承に貢献してくれ、他地域からの観客は作品と共に藪原宿特有の建築様式にも触れる機会となり反響が大きかった。空き家の活用モデルとして提示出来た。
- ② 世界で活躍する国内外の美術作家が地域の小中学校の授業を受け持つ事で広い視野を育み、またイギリスやメキシコとの国際交流により子供たちの好奇心を大きく刺激できた。
- ③ 地域の文化財発掘と紹介として開催した藤田嗣治作品巡りの反響は大きく参加者と共に全国からの問合せも多数あった。
- ④ 展覧会や各イベントではアート、クラフト、グルメ等様々な分野での集客ができ、多様な目的を持つ人々が集まった。

※自己評価【 A 】

【理由】

準備段階に大勢の住民との交流や協力があり会期中には大きな盛り上がりが見られた。予想を超える8千人以上の観客の中には県内や東京都からの美術関係者も多く含まれ今後の発展が期待できる。微力ながらも木曾の文化発信に貢献できた

今後の取り組み

【地域の課題をテーマとした展覧会】美術作家の視点で捉えた地域の課題をテーマとした展覧会と地域住民を対象としたワークショップ開催の継続。

【教育プログラム】子供たちの視野を広げ柔軟な思考を持って社会を生き抜く力を身に付けてもらうため、教育委員会等と連携し一線で活躍する美術作家が木曾地域の子供達を対象に定期的に授業を行う機会を持ちたい。

【画家の村】日曜画家を謳う木祖村を画家の村とし芸術文化を根付かせたい。京都や名古屋、東京など都会から美術作家や学生、愛好家が集い交流・発信の場となるような拠点を作りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある